第24回地方独立行政法人神戸市民病院機構評価委員会　欠席委員の意見

＜評価についてのコメント＞

○ 全体に関する意見

自己評価について、３が多すぎるように感じる。３の中でも努力されたものについては、４が出てきてもいいのではないか。評価委員が納得して評価できるように、数値で評価できないものについては、具体的な取り組みを挙げるようにしていただきたい。３と評されている内容の幅が広いように感じるので、評価のあり方の見直しも必要ではないかと考える（全体の中で「３」が占めている割合がかなり幅広い。「３」の中に「３´」「３´´」「３´´´」があるようなイメージ。「３´´´」は「４」にしてもいいのではないか)。

自己評価の際に、数値以外のものをどう出せばいいのか難しい面はあるが、何か取り組みを始める際に、計画立てた目的や理由と、その年度に取り組んだ内容を比較して、変化や改善が見られた部分があれば、努力の成果として積極的に示してもらいたい。そうすれば、評価委員としてもメリハリのある評価がし易くなる。また、それが職員の取り組みの見直しになると同時に、やる気に繋がっていくように思う。

○ 第１－４－（１）地域医療機関・保健機関・福祉機関との連携推進

小項目評価について、両病院が地域医療機関等とのさらなる連携推進に取り組み、紹介率・逆紹介率の向上にもつながっており、また、昨年度は西市民病院が地域医療支援病院の名称承認を受けたことも踏まえて、「地域医療機関等との連携」の項目については４が妥当ではないか。

○ 第３－１－（１）安定した経営基盤の確立

・また、収支が年度計画を大幅に上回っていることを踏まえて、「安定した経営基盤の確立」は５にあげてはどうか。

・「大幅な収支好転の維持」と自己評価にあるが、評点は５の「年度計画を大幅に上回った」となっていない。確かに、純利益を見ると、平成 22 年度の当期純利益 35 億円には及ばないが、22 年度の減価償却費は 15 億円と 25 年度に比べ額がかなり小さかった。25 年度は減価償却費 35 億円で約 14 億円の純利益を出していることを積極的に評価すべきであろう。

○ 第３－１－（３）費用の合理化について

結果としての決算数値は良好であるが、費用については、いずれも前年に比べ収益に対する比率は高まっている点は気になる。各費用の率が目標の範囲内となっているのは、25 年度も入院、外来単価増があったことも寄与しており、単価増がなけ

れば、費用比率はさらに増加していた。着実に増加する人件費等の固定費増に対し単価増が見込めなくなれば、給与費比率目標等を達成するために病床利用率の向上で費用増を補わざるを得なくなることが懸念される。診療科や診療によって、経費率や材料費率が異なるため、診療報酬に連動して増減する分と、診療科という組織単位、個々の医師、看護師のレベルでの努力による分を切り分けることは難しいが、単に購買等のレベルで費用削減するのではなく、各診療科、現場レベルで費用削減につながるような取り組みをしっかり実施する必要がある。また、人件費については、絶対額を抑えていくことも必要である。業績が良いだけに、資源の節約に対して消極的になり、儲かっていれば良いのだろうという組織風土が形成されることが懸念される。

＜第１期中期目標期間の評価についてのコメント＞

○ 第４財務内容の改善に関する事項について

積極的な設備、人的投資は、入院、外来単価増をもたらしているが、見方を変えれば、費用の増加は、継続的な単価増と高い病床利用率に支えられているといえる。それだけに、診療報酬制度の変化、診療報酬増への貢献度が低い設備、人的投資により単価増の頭打ち、減少となれば、短期的に業績を悪化させる可能性がある。とくに人件費については人数を増やさなくても継続的に増加する可能性が高いため、将来を見越した上限の設定、フレキシビリティの確保などについて、調子のいい今のうちに対策を検討しておく必要がある。